

# 花乃井だより

学校  
通信

令和3年5月11日(火)  
第 66 号  
大阪市立花乃井中学校

## 「いじめ」について考える日!!

毎年GW明けの月曜日は「いじめ」について考える日です。  
今年はまず道徳の授業を通して皆さんに考えてもらいました。



皆さんは「いじめ」はなぜ起こると思いますか。また、どうすれば起こらない、あるいは止めることができると思いますか。いろいろな考えがあると思いますが、いじめを防ぐために、私は以下の4点が大切だと思います。

まず、他者の多様性を受け入れること。皆さんの周りには、いろいろな人がいます。元気な人、おしゃべりな人、おとなしい人、やさしい人、まったく同じ人はいません。中には、体が不自由な人や病気で体が弱い人もいます。また、中には気が合わない人、苦手だなあと思う人もいるかもしれません。しかし、どのような人でも、よくみていると、必ず

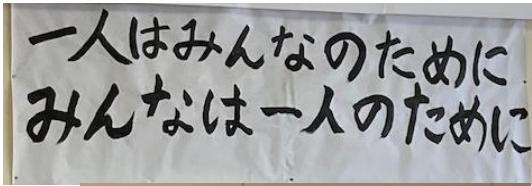


「いいところ」を発見することができます。そうすれば、その他者を受け入れることができます。私たちは常にそのことを意識し、これを発見することができる目を鍛えていくことで、他者の多様性を受け入れていくことができるようになります。

次に、人権感覚（他者の思いに応えようとする心）を磨いていくこと。よく「自分がされて嫌なことは他者（ひと）にしない」といわれますが、もし他者（ひと）が嫌がるであろうことを自分にされたとしても、自分自身が嫌だとは思わないという人もいます。しかし、「自分がされても嫌じゃないので、他者（ひと）がされても嫌ではないだろう」という思いは通用しません。自分のことではなくて、他者のこととしてよく考えながら、思いやりの心をもって行動していく中で、人権感覚は磨かれていきます。

次に、いじめの場の雰囲気を許さないこと。主に「むかついたから」「やられたからやり返す」等からいじめは始まっていますが、「ちょっとふざけただけ」「面白いから」「なんとなく」からもいじめは始まっています。始まってしまったいじめを、“誰が”“どこで（いつ）”正すのかということが大切です。いじめは、いじめられる人といじめる人、そして、周りで見ている（知っている）人の3者で大きくなっています。そして、人間には防衛本能（無意識に自分の身を守る行動）として、周りの雰囲気に流されていく





△学級目標の掲示△

(傍観者になる) という習性があるのです。これは群集心理ともいわれ、大きな川の流れなどにも例えられます。いじめられている人を見て(知って)それを許してしまうと、いじめはどんどんエスカレートしていきます。しかし、その流れに逆らうためには大きな力(エネルギー)が必要です。ただ、身近なところに助かる(助ける)方法があることをよく知っておくこと、そしてすぐに大人に相談すること等で少しでも流れを止めることができます。

最後に「何をしても“いじめ”はなくならないからしょうがない。」とあきらめてしまうのではなく、まずは自分自身で解決への答えをしっかりと持っておくことです。「どんな時でもいじめはよくない。」「いじめる側が必ず悪い。」とは誰もが思っていることです。しかし、社会生活を営む人間の中では、いじめは必ず起きてくるものです。無くならないものなら、起こらないように予防線を張り、起こってしまったらどのように解決していくかという対処法を考えておくことが大切です。

とにかく、皆さん一人ひとりが「いじめは絶対に許さない」との強い思いと、それに向けての少しの勇気を持つことです。少しの勇気の積み重ねがやがて大きな勇気となって、いじめを止めていくことになります。みんなで協力して頑張りましょう。

## 大切な給食の時間



本来なら友達とおしゃべりしながら楽しく食べる給食です。しかし、コロナ禍が始まって感染症対策が実施される中では、机の移動はなく、全員前を向いて、一言もしゃべることなく、ただ黙々と食べるということが続いています。しかも、この取組みは間もなく1年を迎えようとしています。皆さんの努力のおかげで、今のところ給食の時間が原因となる感染はもちろんのこと、濃厚接触の疑義すら問題となったことはありません。事態は少しも収束する気配が見えない現状ですが、必ず終わりはあるものです。今しばらくは辛抱していきましょう。

また、最近は午前中を家で過ごすことが多いからか、運動不足となって給食時に食欲がわからず、残食が増えたようにも思えます。朝昼晩と三食の食事をしっかりとって免疫力を高めていくことが感染症に打ち勝つ方法の1つでもあります。給食は栄養のバランスもとれていますので、残さずしっかり食べられるように頑張っていきましょう。